

製品名: サイクリン E1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09595**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNE1
別名	CCNE1; CCNE; G1/S-specific cyclin-E1
遺伝子 ID	898.0
SwissProt ID	P24864
免疫原	抗血清はヒトサイクリン E1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

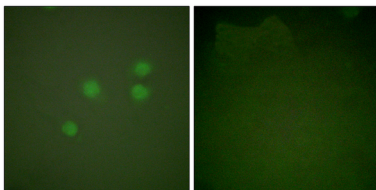
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通じてタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられます。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能します。異なるサイ

クリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与します。このサイクリンは CDK2 と複合体を形成し、その活性が細胞周期の G1/S 期移行に必須である CDK2 の調節サブユニットとして機能します。このタンパク質は G1-S 期境界に蓄積し、細胞が S 期を進むにつれて分解されます。この遺伝子の過剰発現は多くの腫瘍で観察されており、染色体不安定性を引き起こし、腫瘍形成に寄与する可能性があります。このタンパク質は、ATM 遺伝子座にマッピングされた核タンパク質である NPAT タンパク質のリン酸化に関連し、関与していることが判明しました。NPAT タンパク質は、細胞周期の G1/S (開始) 遷移の制御に不可欠です。PTM: GSK3 による Thr-395 のリン酸化と CDK2 による Ser-399 のリン酸化は、ユビキチンプロテアソーム経路による分解を促進します。DNA 損傷時にリン酸化されますが、おそらく ATM または ATR によるものです。類似性: サイクリンファミリーに属します。サイクリン E サブファミリー。サブユニット: CDK2/CDK タンパク質キナーゼのメンバーと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成します。サイクリンサブユニットは、複合体に基質特異性を付与します。網膜芽細胞腫結合タンパク質 3 および網膜芽細胞腫様タンパク質 1 と相互作用する。CDK2、CABLES1、CCNA1 との複合体を形成する (類似性による)。UHRF2、CDK2、CCNE1 からなる複合体の一部である。組織特異性: 精巣および胎盤で高発現。気管支上皮細胞では低発現。

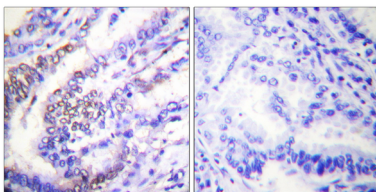
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;がんにおける経路;前立腺がん;小細胞肺がん;

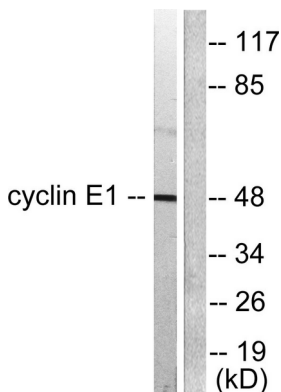
画像データ



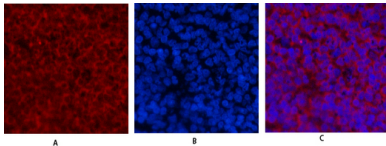
サイクリン E1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



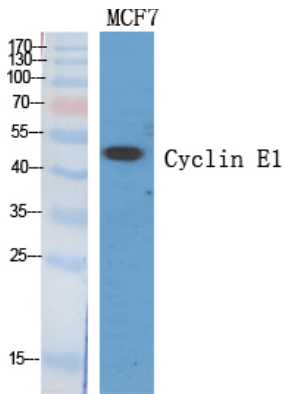
サイクリン E1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



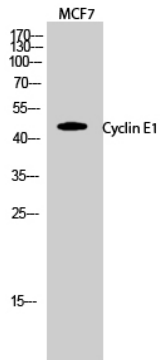
K562 細胞ライセートのサイクリン E1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



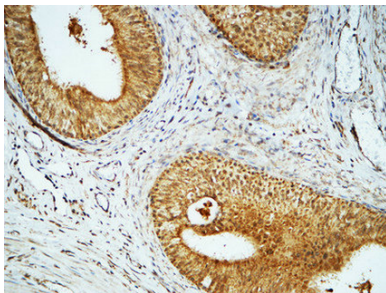
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, サイクリン E1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



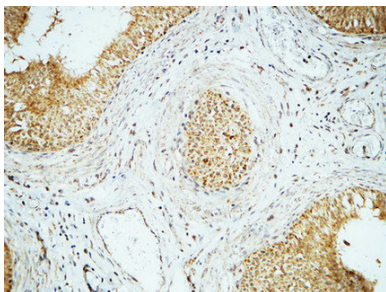
1: 500 希釈のサイクリン E1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



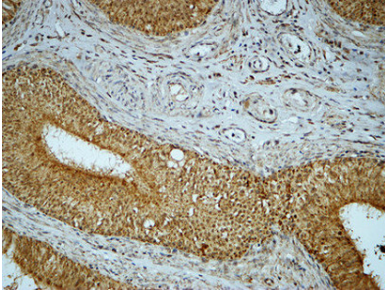
1: 500 希釈のサイクリン E1 ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。